

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	徳島県	事業実施主体	徳島県、勝浦町、上勝町	地域再生計画名	徳島東部の基盤整備による豊かな地域資源を活かした地域づくり計画
計画期間	平成28年度～令和2年度	評価責任者	徳島県 農業基盤課長 梅本 節也、森林整備課長 朝倉 光男、勝浦町 企画交流課長 石木 正昭、上勝町 建設課長 中原 雅和		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	農道整備による集出荷施設への輸送時間短縮	1時間8分	H27	1時間3分	H30	1時間3分	58分		R2	○		指標総数
	指標2	林道整備による年間素材（木材）生産量の増加	11,000m <sup>3</sup>	H26	12,000m <sup>3</sup>	H30	12,746m <sup>3</sup>	12,900m <sup>3</sup>	R2	○	3	3	計画どおり実施されており、最終目標達成を目指していく。
	指標3	林道整備による林業就業者数の増加	17人	H26	19人	H30	20人	22人	R2	○			中間目標値を1人上回っており、引き続き目標達成を目指していく。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1												
	指標2												
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度（R1）	最終実績見込み								
特別措置を適用して行う事業	広域農道整備		1,032m	181m	581m	平成30年度までの整備により、集出荷施設への輸送時間の短縮が達成でき、一定の成果が認められた。今後は、さらに農産物の集出荷施設への輸送時間の短縮を図るため、地域間のアクセス改善をめざして広域農道の整備延長などに事業を行う必要がある。							
	林道整備		3,200m	1,346m	2,746	当初計画に対し、事業の進捗率は一部急斜面を通過したため工事費が割高となり、約42%と遅れが伺えるが、今後は必要に応じ、事業費の増額やコスト削減を図る工法を採用し、引き続き林道の整備を目指していく。							
その他の事業													
計画外で独自に実施した事業	チップボイラー活用支援事業	地域の間伐材をチップ加工し、温泉施設のボイラー燃料として活用					地域の間伐材等をチップ加工したものを地元温泉施設のボイラー燃料として活用している。また、燃料費の軽減や森林資源の循環利用に繋がっている。						
	新次元林業プロジェクト	森林施業の合理化・機械化による生産性向上、木材加工施設の整備支援などにより、県産材生産・消費量、雇用創出を図る					平成29年において、徳島東部森林組合において、木材の伐採搬出の効率化を図るために、高性能林業機械1セット（3台）を購入され、また、森林組合の土場が新設され、平成30年度から運用され、勝浦流域の木材流通の拠点として期待される。						
	森林整備地域活動支援交付金事業	森林所有者等の計画的かつ一体的な森林の施業の実施に不可欠な森林の現況調査その他の地域における活動を支援					森林整備を計画的に進めるために、平成28年度に203ha調査が実施され、間伐事業に反映されている。						
	森林整備加速化・林業再生事業	基幹的な作業道及び森林作業道の整備を来ない、林業活性化と水源林の確保、森林保全の効率化等を図る					平成28年度からの3カ年において、30,700mの作業道を開設し、9haの保育施業を実施し、265haの搬出等の間伐施業や2haの皆伐を行い、森林の保全や間伐材の有効利用が図られた。						
	森林環境保全整備事業	造林、下刈り、間伐等の森林の保育事業を行い、間伐材の有効利用を図り、適切な森林の維持管理に努める											
	勝浦貯蔵みかんブランド化	みかん農家が加入する協議会がブランド化等の産地内連携の視点を明確に取り入れた取り組みを行う					勝浦みかん生産販売促進協議会において、みかんの品質（大きさや糖度等）の向上に取り組むとともにJA東とくしまの出荷箱と従来の出荷箱を統一・刷新した出荷箱により京阪神を中心に出荷している。						
④評価方法	地域再生計画評価委員会による、中間目標値の実現状況に関する評価・検討を行う。												
⑤中間評価の公表方法	県及び町のホームページに掲載												
⑥計画全体の総合評価	本地域の再生計画では、道整備交付金を活用した農道整備と林道整備を一体的に行うことで、効率的な地域間のネットワークの構築が進み、森林施業の効率化が図られ地域の雇用促進につなげる。さらに、主要産業である、「彩山ビジネス」などの農林産物の集荷をスムーズにし、他市町村との連携をより一層効果的にする路網を構築することを目的としている。中間目標の達成状況については、3項目ともほぼ計画どおりであるが、事業の進捗は遅れぎみであるため、事業費の増額やコスト削減をはかり進捗が上がるよう検討してください。												
⑦今後の方針等	中間評価結果の反映状況					有りの場合その具体的内容							
	地域再生計画の見直し（有・無）					計画上の道路整備を行うことで、地域間のネットワークが強化され、目標は概ね達成される見込みである。また、中間評価後の目標達成状況を踏まえ、必要に応じ事業費の重点配分を行う。							
	令和2年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 増額 40,000 千円					林道事業については、計画延長を確保し、森林整備を進めるため、各路線について事業費を増額する。							
⑧今後の方針等に対する対応	本地域の再生計画においては、広域農道及び林道の一体的な事業の整備により、集出荷施設への輸送時間の短縮や森林整備の促進（木材の生産量の増加）、林業就業者数の増加について、一定の事業効果が認められ、中間期においては、事業の実施は妥当であると評価できる。なお、中山間地の広域農道の整備は、農産物の流通合理化を進め、輸送時間の短縮や労力軽減を図る効果があると考えられ、また山間部での林業においても林道網を整備することは、現在、県が進めているスマート林業プロジェクト（川上から川下への生産、流通の整備）と連携することで間伐等の森林整備はもとより、主伐、間伐材搬出の生産性が向上し、また、道路網の整備により高性能林業機械の導入が進み、林業現場の就労条件が改善され、雇用の創出に繋がる。今後は、事業の進捗状況に応じては、事業計画（事業量、事業費）を見直すなど事業を継続し、2年後の最終目標達成に向け関係機関や団体等連携し努力してほしい。												